

# 協議会ニュース

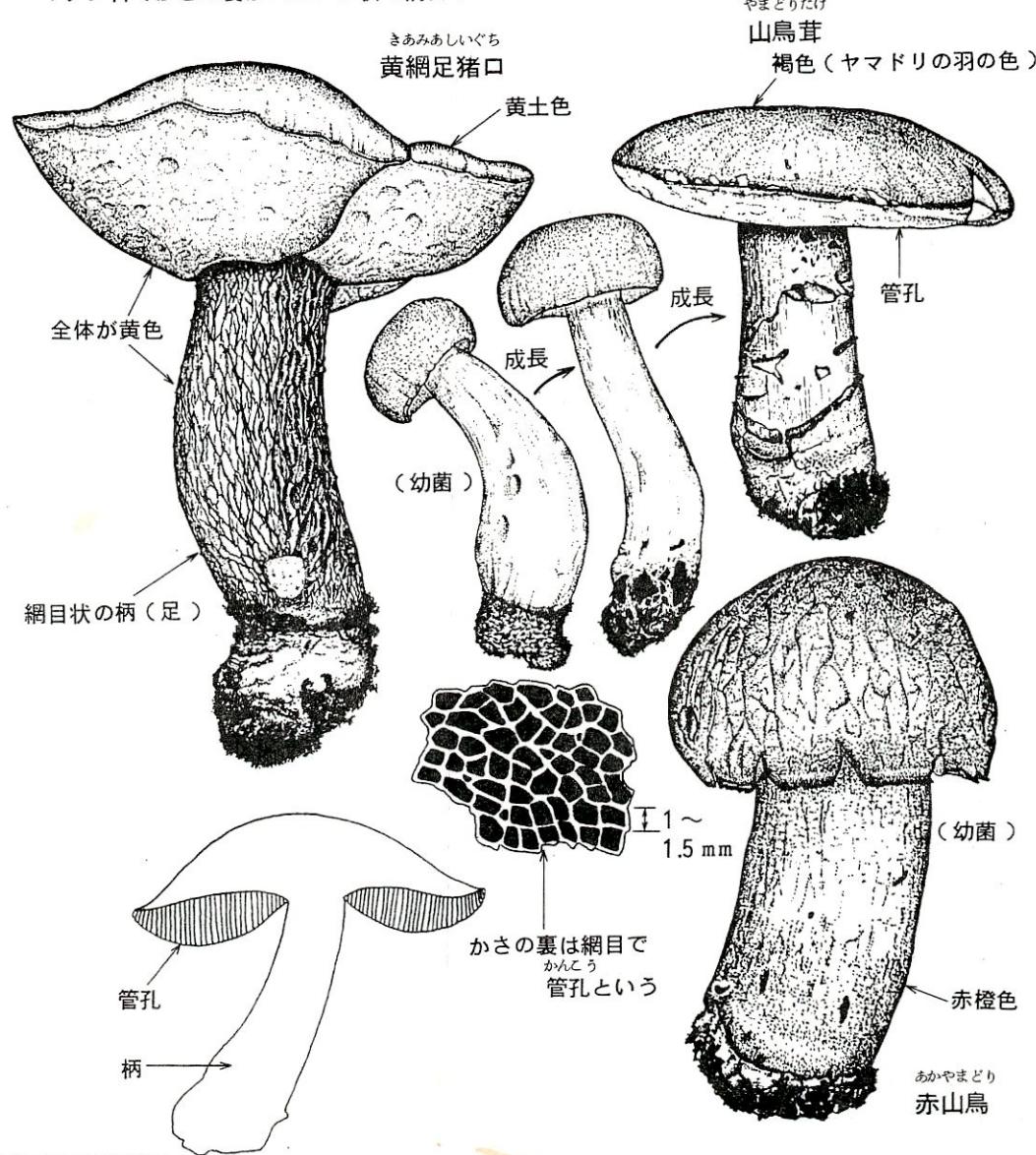
23号

愛知県自然観察指導員連絡協議会

63. 10

## コナラ林のきのこ

イグチ科（かさの裏がスponジ状で網目）



猿投山の山麓にて  
1988.7.10

## 季節の話題

### 吾亦紅(われもこう)

草原(乾性・湿性共)で、夏から秋にかけて暗紅紫色の小花をまばらな穗状につける、バラ科の多年草です。

古くから日本人の生活にとけ込んでおり、若葉は山菜として利用し、根(ゴボウ状)は止血剤などの薬として使われてきました。また、お茶花にもよく利用されます。

華麗とはいわないまでも、独特な花の色と姿はなかなか風雅なものです。このワレモコウがどうして秋の七草(ハギ・ススキ・クズ・ナデシコ・オミナエシ・フジバカマ・キキョウ)に入れてもらえないのか、不思議でなりません。私個人としては、少なくとも、クズやフジバカマよりは秋の七草にふさわしいと思いますが…。

自然観察の側面からも、ワレモコウは重要なポイントを持っています。それは、シジミチョウの1種のゴマシジミとの関係です。チョウの幼虫は一般的には植物食ですが、このゴマシジ

ミは、ちょっと変わっています。ワレモコウの花に産みつけられた卵から孵化した1齢幼虫はワレモコウの花びらを食べますが、2齢幼虫になると、花を訪れたアリの巣に運ばれて、そこで成長します。アリには体から分泌する蜜を与え、餌はアリからもらうという共生生活を送ります。そしてアリの巣の中で蛹になり、羽化すると羽が伸びる前に地上に走り出て、そこで羽を広げるという、何ともおもしろい生活様式をもったチョウです。

愛知県でも山地の草原でわずかながらゴマシジミを見ることがあります。採集するだけでなく、じっくりと昆虫の生態や行動も観察するようにしたいものです。

(北岡明彦)



ワレモコウに産卵するゴマシジミ

## 協議会ニュース23号目次

・森のかわいい仲間たち	.....(辻伸夫).....表紙
・季節の話題 われもこう	.....(北岡明彦).....1
・表紙のことば	.....(辻伸夫).....1
・会員紹介 ⑧	.....(松尾初).....2
・特集 愛知県のブナ科樹木	.....(調査委員会).....3
・マイ・ウォッキング	
視察研修(ブナ林と高層湿原を訪ねる).....(相羽福松)....6	
光明寺緑地の動物 .....(伏屋光信).....7	
短編推理小説「トラフズク探偵団」...(平井直人).....8	
・会員広場	.....(塚田桂子・武田篤・石原勤).....9
・おたよりコーナー	.....(北岡由美子).....10
・支部だより	.....11
・協議会行事報告	.....13
・会員移動	.....14
・観察あれこれ	.....(北岡明彦).....14
・行事案内	.....15
・お知らせ	.....15

### “森のかわいい仲間たち”

夏のコナラ林には、秋に劣らぬ多種類のきのこを見る事ができます。このうちイグチ科のきのこは、形のユニークさと色の美しさが目にとまります。このきのこは植物の根に菌糸を繁茂させ、菌根を作ります。菌根により植物から栄養分をもらい、植物へは微量要素などの養分を与えるという共生関係を作りあげています。

きのこの生活はそのほとんどが地中や落葉の中で行われており、ほんの一時期のみ、「きのこ姿」を地上に発生させます。きのこの生える季節だけ私達は関心を持っていますが、それ以外の本当の暮らし方や森の中での大切な役割についても、いろいろ考えてみましょう。(西三河支部 辻伸夫)

# 私の自然体験記

松尾 初（ブナ科樹木分布調査委員長）



## 種名

私が最も印象に残っている植物の和名は、高校1年春に先輩達と蝶の採集に出掛けた時のことです。目的の蝶には出合わず、ただ道路をぶらぶ

ら歩いていると、先輩が、黄色い花を見つけ、にこにこと笑いながら、その花の名を訪ねました。私は分からないと答えると、彼は地面に自分の足跡をつけて、「これだ。」と言いました。私は何かわからず、黙っていると、もう1人の先輩が笑いながらウマノアシガタと教えてくれました。これを聞いて私もやっと納得して笑ったのです。

## クマ

学生の時、毎月定期的に行っていた岐阜県の神崎という所でツキノワグマが出没すると聞いたので、私達は仲間と誘い合せて、キャンプ道具を一式持ち、クマを見に行きました。出没した所へ行ってみると、クマの糞にカキの実が混じり、カキの木には爪跡がしっかりとついており、これはまた出るぞと考え、ここで待つことにしました。観察し易いようにということで、私達のいる所から見易いカキの木以外は、全てカキの実を取ってしまいました。しかし、クマは現れませんでした。見たのはイノシシが土を掘り返した跡だけでした。この頃は無知でしたね。カキももったいないことをしました。

## キノコ

同じく、学生の時、岐阜の万波でブナ林を調査し、そこでマイタケというおいしいキノコを食べさせてもらい、これに味をしめて、下宿でも食べようと考え、スギタケとタヌキノチャブクロを持ち帰りました。そして、友人とスキヤキに入れておいしく食べました。ところが、あくる日、私の顔の左半分がお岩のように腫れあがりました。原因はまったく不明？です。友人は何ともありませんでした。注意！キノコは人によって当たりはず

れがあるそうです。デリケートな方は注意してください。

## ハチ

また、同じく学生の時、富士山に登りました。いや、富士山を下りました。山梨県側の吉田口から、植生の調査と土壤の採取をしながら2泊3日で下りました。上からカラマツとミヤマハンノキの矮性低木林、シラベ林、コメツガ林と林相が変化し、最後はアカマツ林です。途中、シラベの枝のフトンで安眠です。そして、3日目の調査を終了する日のことです。登山道の法面を乗り越えて最後の調査点まで進もうとした時のことです。最初の人は荷物も重いのでよっこらしょと乗り越え、次の人もすんなりと乗り越え、次は私です。この頃は身軽だった私です。ひょいひょいと乗り越えようとした時のことです。この1歩で登りきろうというのに、目の前にハチの大群が襲ってきたのです。私はキスリングを投げ捨て、大声でわめきながら下へ必死になって逃げまどいました。やっとのことで、ハチの大群から逃れて我に返り、衣服を点検しますと、半袖のシャツの袖口に数10匹のクロスズメバチがきちんと整列して私を突き刺していました。これだけではありません。登山靴にもびっしりと付いているではありませんか。これにはぞっとしました。いや、その時はこんな落着いていませんでした。あわてて払い落とし、足踏みをし、また、必死で逃げました。マムシと同様、3番目は恐いですね。なお、この時はついていませんでした。調査が終って帰る道に出ようとしたのですが、いくら進んでも出合うはずの道に出ません。おかしいなということで、進むのをやめ、地図で確認し、みんなで四方に分かれ、道を探しました。結局、私達は道と平行して歩いていることが判明しましたが、地図に記されている道と全く方向が違っていました。富士山は恐い所ですね。みなさんも、富士山へ行った時は迷子に注意しましょう。

# 愛知県のブナ科樹木

## ブナ科樹木分布調査委員会

日本の暖帯から温帯にかけての森林の主役は、何といってもブナ科の樹木です。暖帶の常緑広葉樹林はシイとカシ、温帯の落葉広葉樹林はミズナラとブナが極相林の主要高木です。また、二次林ではコナラとクヌギ・アベマキが主流となります。

愛知県の自然に関する基礎調査として、私達の協議会ではブナ科樹木分布調査委員会を設置し、これら樹木の分布域を調べてみることにしました。  
( 詳細は21号 P 7 を参照 )

### 1. 愛知県に自生するブナ科樹木

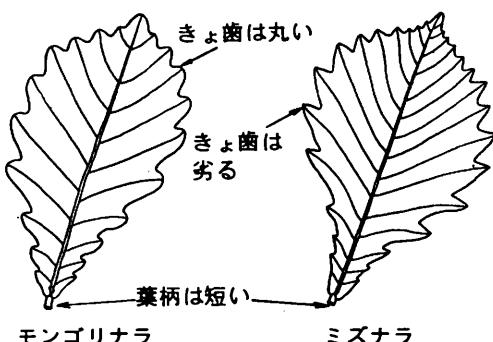
愛知県では、現在までに5属17種2変種のブナ科樹木が記録されています。しかし、神社仏閣等に大木が多いイチイガシ(ドングリが生食できる唯一のカシ)、知多市の大草城址他数か所でのみ見られるマテバシイ、古くからのハゲ山復旧地に見られるウバメガシ(海岸線と鳳来町黄柳野周辺の蛇紋岩地帯には自生がある)等、天然分布か人為分布か判断に迷うことがあります。

また、各種の間で雑種個体を作ることが多く、これらの同定には、首をかしげてしまいます。

### 2. モンゴリナラのおもしろい分布

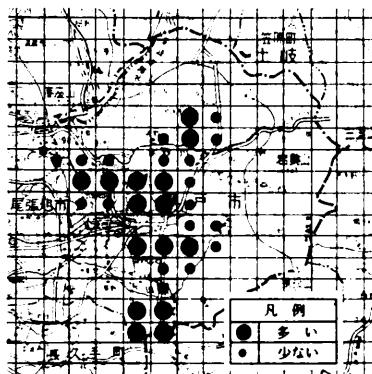
今年の重点調査項目のひとつに、モンゴリナラの分布調査があります。この種は温帯山地に広く見られるミズナラの基本種で、東海地方では東濃地方から尾張・西加茂丘陵地帯に特徴的に多産します。

このうち瀬戸市では、中央部から南部にかけて



モンゴリナラ

ミズナラ



広がる丘陵地帯に、モンゴリナラが広く分布しています。この丘陵地は第三紀層と花崗岩で形成された瀬戸特有の痩せた山地で、モン

瀬戸市のモンゴリナラの分布域  
( 1区画は1km四方 )

ゴリナラは痩せ山の木です。分布の上限は標高 250 m の品野台あたりで、そこから南へ豊田市境の上之山町までが東限線となっています。三国山や猿投山の山腹にも痩せ山は幾らもあるのに、なぜかモンゴリナラは見当りません。温帯性のモンゴリナラが、寒さの影響を受けるとは考えられず、首を傾げたくなります。

定光寺を中心とした中古生層の山地でも、モンゴリナラは見られません。地質的影響か、又は、他の何等かの障害によるものか、調べてみたりました。瀬戸市から東谷山の南を通って、名古屋市のフルーツパークへ抜ける道があります。この道は、北側(東谷山)が中古生層、南側が第三紀層と両地層の接点であり、モンゴリナラ分布の北限線でもあります。この道の北側の林内を 100 m ほど歩いて見ましたら、中高木 1 本と低木 3 本を確認することができました。しかし、上層のアベマキやコナラに負けてしまっています。痩せ山の木モンゴリナラは中古生層の林内では生きるのがやっとのようです。コナラ × モンゴリナラ・アベマキ × モンゴリナラ等の雑種と思われるもの 3 本も同時に確認することができました。

こうした分布調査を全県的に実施して、モンゴリナラの分布を明らかにするとともに、その要因を探っていきたいと思います。

### 3. ブナ科樹木分布調査

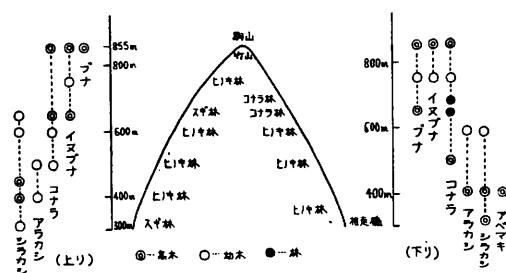
ブナ科樹木調査委員会では、植物を見て歩く楽しみを兼ねて、愛知県におけるブナ科樹木の垂直分布がどのようにになっているかを調べるために、東加茂郡旭町の駒山と北設楽郡稻武町の面ノ木峠の2か所で調査を実施しました。

この2か所を選んだ理由は比較的自然の林の痕跡を留めていることと、標高が約300m～1,200mとなり、温帯性の種類と暖帯性の種類の境界を把握することが出来ると考えたからです。

まずは駒山の調査結果です。駒山は調査地域図(駒山)に示すように、奥矢作湖の左岸に位置し標高は855mです。調査は昭和63年6月26日に奥矢作湖左岸(標高約300m)から小馬寺への参道沿いに登り、標高が約100m上がる毎に、ブナ科樹木の出現した地点を調査ポイントとして選び、生育状況を調べました。この結果は駒山の垂直分布という図に示しました。これから分ることは、温帯性のブナが標高約650mから出現し、暖帯性のシラカシ、アラカシは約600～650mまでしか分布していませんでした。しかし、同じ暖帯性のコナラは標高855mまで分布していることから考



調査地域図(旭町駒山)



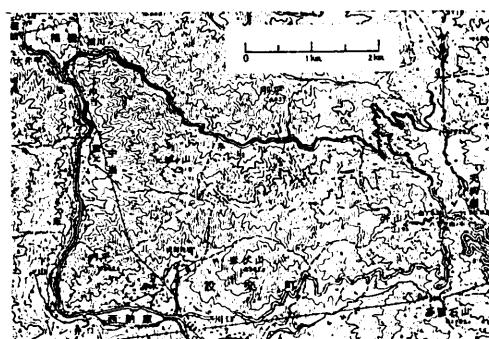
(調査日 63・6・26)

ブナ科樹木垂直分布図(旭町駒山)

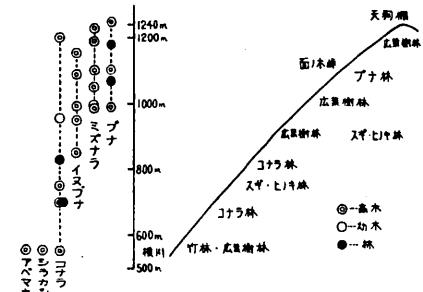
えると、前記の常緑のカシ類が同じ様に分布していてもおかしくはありません。駒山の場合、多くが人工林であり、自然の林の痕跡が途切れてしまっている可能性もあり、今後、他の場所を調べていくうちに分つて来ると考えています。なお、ここではヤワタソウ、ヤマゴボウ、アオフタバラン、ヒツボクロなど私の今まで見たことのない種類の花を見ることが出来ました。

次に、面ノ木峠です。ここはほとんど車道沿いに歩いたために野草は余り見られず、疲労感の多い所でした。調査は横川という部落(標高540m)から面ノ木峠の天狗棚(標高約1,240m)までですが、7月17日に実施した調査ではブナ科樹木の割合が非常に少なかったため後日に補足調査を行い、その資料も加えて分析してみました。調査の方法は駒山と同様です。

面ノ木峠の特徴は、上部の峠付近には、ブナの天然林が残され、直径が1m程の大木が見られます。温帯性のブナは標高約980mから上部に見られ、その中心は1,100mから1,200mの所にあります。ミズナラはブナと同様約980mから見られ、中間温帯に分布するといわれているイヌブナは標



調査地域図(稻武町面ノ木峠)



(調査日 63・7・17)

ブナ科樹木垂直分布図(稻武町面ノ木峠)

高850m～1,150mに見られました。一方、暖帶性のシラカシは登り口の標高約540mで見た以外は全く見られず、分布の限界を把握するためのルートとしては不適当であったかもしれません。しかし、コナラについては、標高約950mまでは分布し、そして、飛び離れて、標高約1,200mにも出現するという意外な結果となりました。天狗棚付近の尾根は岩石が露出し土壤が浅く乾燥した地区があり、そこにコナラが見られます。もちろんブナやミズナラを初め温帶性樹木が多いのですが、低地に多いウリカエデ（ブナ原生林内には全く見られない）が出現するというおもしろい現象があり注目に値します。

ブナ科樹木分布調査委員会では、今まで2カ所の垂直分布調査を実施してきましたが、この2カ所でも疑問な所が多く、例えば、温帶性のブナの下限は標高何mか？、2カ所の調査地域では暖帶性のカシ類のうち、今回の調査地域ではシラカシが中心か？、イヌブナの分布はどうなっているか？等々多くの疑問を解き明かしていくつもりでおりますので、皆さんも種々の情報を提供して下さるようお願いします。

なお、私達の調査は気楽に楽しめるようなルートを設定するよう心掛けて、来年以降も植物が豊富でおかつブナ科樹木の分布限界を観察できるような場所を調査しますので、皆様の多数の参加をお待ちしております。

#### 4. ブナをとりまく動物達

植物を観察していると、自然にそれを食べる動物達が目につきます。食物としての樹木は、大きく分けると生葉・実・枯木・落葉になり、各々多くの異なる動物の餌となっています。ブナの森は「豊饒の森」と呼ばれるように、実に多種多様な生物相が見られますが、ブナの木に限っていえば、思った程これを食物としている動物は多くないといえそうです。

稻武町面ノ木峠のブナ原生林でブナを直接食べる動物を注意して観察したところ、次の図のような結果となりました。

双眼鏡で観察するとわかるようにブナの生葉には案外食痕は少ないですし、枯枝から羽脱していくカミキリムシの種類も他の樹種に比較して多く



#### ブナを直接食べる動物達

ありません。それに比べて、古い立枯れ木にはえるキノコ類を食べる菌食昆虫の多さにはびっくりします。愛知県でここだけと思われるオオキノコムシを始め各種のキノコムシ・ハネカクシ・デオキノコムシ・ケシキスイ等の仲間が集まり、さながらキノコパーティー会場の感があります。間接的にブナに依存する動物といえるでしょう。

一方、ブナの落葉は成分としてタンニンを多く含むためか、カエデ類やシデ類に比べるとなかなか分解しません。そのため、林床には特にブナの落葉が目立つようになります。

面ノ木峠のブナは300年を越す古い樹がたくさんあり、森林としての活力は衰退時期にあるようで、毎年大木の立枯れが目につきます。300年前といえば、江戸時代の初期です。ブナ原生林にひとりで座っていると、「彼らは、ちよんまげ姿



であるく武士「ブナ倒木上を歩くヒゲナガゴマフカミキリから自動車で走り過ぎる現代人までを、いったいどんな気持ちで眺めているのだろう？」などと考えてしまいます。私達もまた、ブナをとりまく動物達にちがいありません。

## 視察研修（ブナ林と高層湿原を訪ねて）

相羽福松（知多支部）

当協議会恒例の視察研修が去る6月18～19日の両日、参加者16名を迎えて行われました。裏日本系ブナ林と高層湿原を観察し、あわせて、会員相互の親睦を図ることを目的としたもので、行先は岐阜県大野郡白川村及び吉城郡河合村方面でした。私はこの研修に参加しましたので、その時の記録を簡単ですが、記してみました。

6月18日曇り、知多支部からは榎原正躬さん・降幡光宏さん・菊池今朝和さんと私の4人。榎原さんの車で、早朝6:00出発しました。

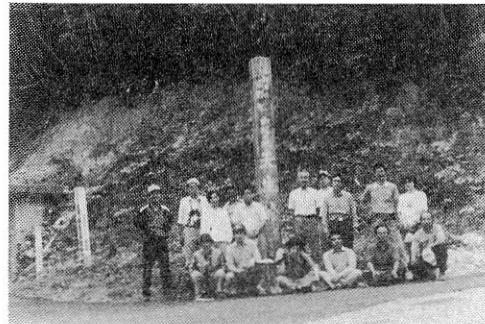
8:30に美濃市洲原神社着、3人合流。社叢観察。洲原神社は、鶴形山緑地環境保全地域及びブッポウソウ繁殖地として国の天然記念物になっています。（記録）スギ（幹周5.52m樹高30mの大木）・タブ（幹周4.50m樹高16mの古木）・ヒノキ・ケヤキ、河原には※ヤマツツジ・※ネコヤナギ・水辺にキセキレイが飛ぶ。

11:00に高鷲村蛭ヶ野高原着、湿原観察。（記録）ミズバショウ・ザゼンソウ・※タニウツギ・※コバイケイソウ・サワギキョウ・※ワタスゲ・ウグイスの警戒声を聞く。

13:00に旧遠山家合掌造り（国指定文化財）見学。14:00に大白川に着き、白水の滝を遠望し、天然林を散策。大白川は裏日本系のブナ原生林がある所です。また、白山国立公園内にあって、白山の登山口もあります。（記録）高木ブナ（樹高25m）・ミズナラ（樹高25m）・※トチノキ・シナノキ、亜高木※ミズキ・ハシバミ・カツラ・イタヤカエデ・ハウチワカエデ・ウリハダカエデ・※ホオノキ、低木△オオバクロモジ・△ハイイヌガヤ・△ハイイヌツゲ、草本△チシマザサ・※クルマバソウ・※ホウチャクソウ・※ユキザサなど。

17:40に白川村民宿幸工門着。18:30に午後出発の組が着き、16名参加者全員揃う。19:30鮎と山菜の料理で合掌村の一夜を過ごす。

6月19日晴れ、5:00早朝観察、白川村合掌集落（国指定文化財）をウォッチング。茅葺きの大



きな屋根の家が無数に立ち並ぶ。※アカショウマ・※ササユリの花が咲き、ウグイス・ホオジロ・アカショウビンの鳴き声が聞こえました。

7:00に朝食をとり、8:00に宿を出る。

8:15 大窪沼に着き、湿原を観察。（記録）ミズバショウ・※フトヒルムシロ・△ヒメアオキ。

天生峠に向かいましたが、道路工事で通行止があり、相談の末、大回りし行くことにしました。

12:00河合村天生峠着。昼食後に湿原を観察。標高1,290mで、植物地理学上注目されるホロムイソウなどが自生する高層湿原があります。昭和42年に、岐阜県の天然記念物に指定されました。（記録）高木ブナ・ミズナラ・オニグルミ、亜高木ダケカンバ・ヤマハンノキ・タムシバ・ハウチワカエデ・※ヤマネコヤナギ、低木△ハイイヌガヤ・△ハイイヌツゲ・△エゾユズリハ・ミヤマイボタ・※アズキナシ・※ムラサキヤシオ、草本△チシマザサ・ミズバショウ・ザゼンソウ・ウバユリ・モウセンゴケ・※ズダヤクシュ・※オオバミヅホオズキ・※ミツガシワ・※ワタスゲ・※ミツバオウレン・※ツマトリソウなど。モリアオガエルの卵塊とイモリを発見しました。

15:30記念撮影し解散。20:00に帰宅。

この2日間、幸いにも好天に恵まれ、県下では見られない素晴らしい大自然に接することができました。また、会員の方々と終始和やかに過ごしたことは、私の一生の思い出として、いつまでも残ることでしょう。

④ ※印は開花中の植物、△印は裏日本系植物

# 一宮市光明寺緑地の動物

伏屋光信（尾張支部）

場所は一宮市の北を流れる木曽川の左岸に広がる光明寺緑地。面積は約144ヘクタールで、尾張地方の平野部では唯一の大規模な自然が残されているところです。「自然環境の保全」をテーマにした中学校3年生の理科の授業で使う資料を集めに、早朝、ここに出かけていきました。光明寺緑地の中にある野鳥園（面積11ヘクタール）の観察場から、双眼鏡で鳥の観察をしていました。そのときです。シッポの長い犬みたいなものが2匹、視野をスーと横切っていったのです。あごから首にかけての毛が白く、大きな長いシッポ、口は耳まで裂けている。これはキツネだと思います。しかし、ここにキツネがすんでいるという話は聞いたことがありません。（地元の人の話では、昔はよく鳴き声を聞いたそうです。）

学校に行って、2、3人の先生に話しても「まさか！」です。私が両手を広げ、「シッポがこんなに長くて………」と言っても、やっぱり証拠がないものですから、なんともなりません。

次の朝、同じ時間に同じ場所をかけ回っているかも、と思い、300mmのズームレンズをカメラにつけて出かけていきました。野鳥園の奥のほうで「ゴン、ゴン」という鳴き声がしています。この鳴き声、確かに犬ではありません。きのうのように元気に2匹が目の前に走り出てこないか、と思



動きの鈍いやせタヌキ（昭和62年6月27日）

ってはいるのですが、全く現われません。しかし、結局は、ほとんど同じ時間に、私のいる場所から30mくらいのところに、ひょっこりと出てきたのです。それも2匹、ピントを合わせて、ズーミングして何枚も撮りました。キツネがこちらのほうを向いているのはシャッターの音に警戒しているからでしょう。この話、マスコミに流すのはやめて、授業に使うだけにしました。生徒は一宮市にキツネがいることにかなり驚いていました。

キツネを見つけた翌年の6月、今度はタヌキを見つけました。市内の理科の先生数人と、光明寺緑地の観察ガイドをつくろうと雑木林のソデのあたりを調べていたときのことです。40mほど先のところで、犬でもないし、ネコでもない、変な格好のものが地面の上の何かをしきりに食べているのです。（光明寺緑地にタヌキはいないことになっていますから、誰も自信を持って「これはタヌキ！」とは言い出しません。）はじめは遠くから双眼鏡で見ていたのですが、写真に撮ってあとで調べようと、いっぱいまで近づいてシャッターを切りました。このときのレンズは50mmのマクロレンズです。しかし、この写真、タヌキが、あまりにもやせているため、なかなかみんなに「タヌキ！」と言ってもらえませんでした。この話も、やっぱり授業だけにしておきました。



目前に出てきたキツネ（昭和61年10月4日）

# 短編推理小説「トラフズク探偵団」

平井直人（尾張支部）

フクロウ類やカワセミ類などは獲物を丸飲みにし、消化できなかった骨や毛をペリットという塊にして吐き出します。そしてこのペリットが、鳥の食性とその行動を知る手掛りになるのです。

## 1. ペリット採取時の状況

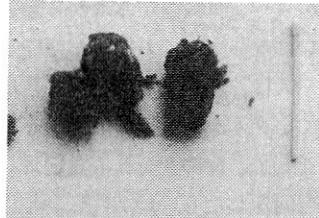
ペリットは昭和62年12月26日(土)、矢作川沿いにある小さな松林で採取しました。松の木の下にはたくさんペリットが落ちていて、まだ吐いて間もない物もありました。そうです。その木の上にはトラフズクが手の届きそうな距離で止まっており、こちらをジーッと見ていました。周りをよく見ると、音もなく林の間を飛び回る姿があちこちで見られ、かなりの数がまとまっているようでした。さすがに吐いて間もないペリットは臭く、まだベトベトしていたので、乾燥したものを4個採取しました。

## 2. ペリットの分解方法

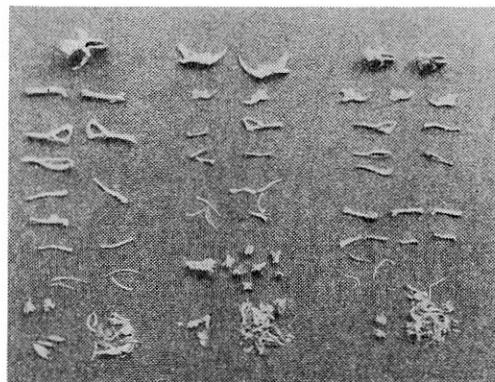
まずペリットを1個ずつ水をはったチェリーカップにつけ、ピンセットで毛をほぐしながら骨を取り出していきます。骨を壊さないように、そして拾いこぼしのないように細かい骨も取り出し、最後に毛をこし取ります。実際にはペリットを壊す前に、乾燥重量や大きさを計っておく必要があると思いますが、今回はできませんでした。

## 3. ペリットの分析

4個のペリットを分解してみると、やはりほとんどがネズミ類の骨と毛でした。ただ2個のペリットにはイネのモミ殻が約2個分入っていました。トラフズクが米を目的にして食べたとは考えられないため、何らかの形でネズミが持っていたモミ殻を、一緒に取り込んだと考えた方がよさそうです。



ペリット全形



分解・展開したペリット（3個分）

また入っている骨もペリット毎に異なり、1個のペリットの中に、ちょうどネズミ1匹分の骨が入っているものもあれば、小形の骨がほぼ2匹分入っていたり、上顎ではなく下顎だけ2匹分で、あの骨はそろっていないペリットがあったりと、いろいろでした。そして、上顎骨の臼歯の構造からハタネズミやカヤネズミの仲間（キヌゲネズミ科）であることが分かり、ペリットの灰色の毛の色からハタネズミではないかと思われます。

## 4. ペリットとトラフズクの生活

ペリットの骨がすべてハタネズミだとすると、トラフズクの採餌場所はハタネズミが住んでいる河川敷や、田畠・草原ということになります。今回トラフズクのいた松林の周囲は田畠が多く、近くには河川敷もあり、まさにハタネズミが住むには打ってつけの場所でした。つまりこのトラフズクは夜な夜な近くの田畠や河川敷に出掛けては、たらふくネズミを食べ、昼間は松林の中でのんびりと過していました。

## 5. 感想

足元に自分の生活ぶりがばれてしまうペリットを落としておいて、本人はその上で知らん顔なんておかしいですね。ひょっとしてトラフズクは人間たちに探偵ごっこをさせようとして、ジーッと目で訴えかけているのでは？



## 風 ご よみ

(尾張支部 塚田桂子)

「自然観察会」に初めて参加したのは、六年前の秋のことでした。久し振りに野山を歩く嬉しさと未知への期待にときめきながら、双眼鏡を覗いたものでした。大洞池を渡る風がキラキラ光っていて、辺りの落葉樹の入混った林が印象的でした。その日、善師野がくれた贈り物は、遠い日に、信州の山々に魅せられて歩いた時の、あの原初的な感動に似ていました。熟れた木の実、葉叢のざわめき、流れる雲、鳥の声、月例会のフィールドだった継鹿尾周辺での雪上の足跡も、早春の夏緑林も、今では私の原風景となっています。

先日、近くの雑木林を歩いてみました。見知らぬ風が耳元を過ぎていきました。心象を重ね合わせて、拙い私の風ごよみを綴ったりしています。

### 〈 林 〉

きのう みた 風のことを  
話す 少女の いない 林

細い指 と くらい眼 と  
ふたこと みこと が いりまじるとき  
かすかにふるえる あの葉 を もつ  
わたしの木  
の いない  
林

あらゆるやさしさの奥に ひそむ  
塊  
の ような  
あの沈黙

鳥の いない  
海の ない  
わたしの木 の  
ここにも ない  
林

???

(名古屋支部 武田 篤)

最近、自分は何をやっているのだろうか?

干潟や湿地の保護運動 ——それは、今まで人間が切り捨ててきたものを、生態系を成り立たせていくために守ろうとする運動。水と水によって運ばれる物質の循環を守る運動であり、地球の調和を守る運動。こういった意味で、リサイクル運動や、反原発運動との共闘も多い。宗教的な人の中には、これらの動きが、神々の新しい動きの一つであり、インディアンの神も援助しているとみる人もある。

タイの野鳥保護家の話を聞くと、干潟も湿原も Wet Land であり、干潟は、Salty Wet Land と言っていた。まあ、熱帯の低地には、高層湿原などなく、湿原と言えば、水草等の生えた沼だか湿原だかわからないようなものだからなあと思った。スライドの中には、Water Lily や、Utriculavia 等もあった。

岡崎には、ミズゴケ湿原が多い。ウメバチソウやレンゲツツジが咲きほこり、近くには、マツムシソウも咲く。海拔なんと数十mである。また、名古屋東部には、礫のゴロゴロした湿地も多い。そこには、シラタマホシクサやミミカキゲサ類が花を咲かせる。なぜこんなすばらしい所を人は、つぶすのだろうか?

干潟は、すばらしく生き物に富んだ所だ。川が運んできた汚れ・養分を餌に、微生物が繁殖していく。太陽の照りつける時だけ、泥の表面に出てくるケイソウもいる。それらをゴカイやカニが食べ、あるいは魚の稚魚が食べ、さらにそれらを鳥が食べ、有機物が水系から除去されて、海はきれいになってゆく。物質が循環してゆく。

人は、埋め立てで海をダメにしてきただけでなく、ダムを作り地球の循環を、血流を止めてきた。そして、緑のマントも食い荒してきた。……で、今何をしたらいい?

## 名古屋港西一区の埋め立てに思う

(尾張支部 石原 勤)

あなたは名古屋市港区の稲永公園にある名古屋市野鳥観察館へ行かれたことがありますか。庄内川の河口の左岸に立つ、西向きの二階建の建物で各階に30倍の望遠鏡が15台ずつ並んでいます。庄内川のすぐ西隣には、新川が流れおり、この先には、1km四方余りの干潟があります。これが藤前干潟です。野鳥観察館からは目の前の庄内川はもちろん、新川から藤前干潟の先まで見通せます。この藤前干潟を名古屋市のゴミ処分場にし埋め立てようとするのが、名古屋港の西一区計画です。

この地域の水鳥の調査が、1年半の間に24回行われました。24回の水鳥の合計は、73種・38万6千羽。1回の最高数は、シギ・チドリで10,167羽、ガン・カモで29,466羽と全国最大級の生息・渡来地と思われます。これらの鳥のうち、シギやチドリは、繁殖地のシベリアから日本を経て、南アジアやオーストラリアまで渡って越冬し、また、1万数千kmの旅をして、シベリアまで帰ります。この渡りの中継地としてカニやゴカイを食べて休息するのが、日本の干潟です。日本の干潟も埋め立てなどで、どんどん減り、主な干潟は、全国で

十箇所。この内、シギ・チドリの全国一斉調査で、一万羽以上数えられた干潟は、九州の有明海、東京湾、伊勢・三河湾の三個所です。

大潮の日に、野鳥観察館へ行ってみて下さい。水が深い間は鳥がエサを探りにくく、干潟が乾くとカニたちは深くもぐってしまうのか、エサを探るために集まつた鳥たちは、水の引くのに応じて動いて行きます。潮の引き始めは庄内川に集っていた鳥は、川の中央の干潟が広がった頃、一斉に藤前干潟へ移ってしまいます。恐らく、藤前干潟の方が、水深が深く、広いので、安心してエサ探しができるのでしょう。もし、藤前干潟が埋め立てられた時には、鳥たちは庄内川からどこへ移ったらよいのでしょうか。これ以上に干潟が減れば飛来する鳥は激減するでしょう。人間が出すゴミのために、豊かな自然が、また失われていくのをあなたはどのように思われますか。

次回のリレー投稿は、井上久義(尾張)、山田一孝(名古屋)、福西寿広(名古屋)の各氏にお願いします。

(原稿〆切:11月30日 北岡まで)

### おたよりコーナー 伊吹山自然観察会に参加して

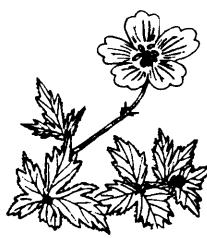
(尾張支部 北岡由美子)

88年8月8日、下界の暑さを逃れて伊吹山に行ってきました。ドライブウェイを上るにつれて次々と花が現れて、山頂では広大な高茎草原のお花畠にびっくりしました。

山頂への斜面は、シモツケソウのピンク、メタカラコウの黄、シシウドの白、クガイソウの紫で埋っており、南側の急斜面ではイブキトラノオが群生する上を霧が次々と上がってきて、高山のイメージ。特にピンクのイブキフウロは、花弁の先が3裂して最高でした。

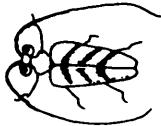
と、偶然「1時より山頂にて自然観察会を行います云々…」の放送があり、急拵参加を決定。山頂にいた人達が、「じゃあ、ちょっと」とい

う感じで、60名程集まりました。滋賀県自然観察指導者連絡会の村長・竺両氏のもとで観察会が始まりました。資料による気象・地質の説明や、石灰岩に希塩酸をかけて二酸化炭素を発生する実験もありました。この山に織田信長が外国産の薬草園を作り、今もその名残りが見られる事など興味深く聞きました。その後、お花畠の植物観察をして2時解散。特産のルリトラノオなどをしっかり見れて、なかなか有意義でした。ただ、伊吹山の高茎草原の特殊性と重要性やその保護についても説明があると、もっと良かったのでは?と思いました。



イブキフウロ

## 支部だより

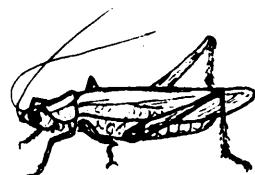


## 名古屋支部

9月7日(水) 例会「鳴く虫」

“秋風に吹かれて虫達のラブコールを聞こう”をうたい文句に、知多支部の水野さんを講師にお迎えしての屋外例会です。

気持ちのよい秋風の中、矢田川川岸とその付近を散策し、ミツカドコオロギ・クマズ・カネタキ・カンタンなど、約20種の虫の声を教えていただきました。ヒットは、クビキリギスの鳴いている姿です。羽の振動のあまりの早さに一同感心の声。それにしても、懐中電灯に照らされた羽の美しかったこと。きれいなカンタンの声とともに印象深いものでした。



(三輪治代美)

クビキリギス♂

9月18日(日) 大森湿地自然観察会

『名古屋の葦毛』と名古屋支部では呼ばれている大森湿地の一帯は、湿地あり林あり池ありと名古屋市内では比較的自然が残されている所です。

観察会では、いろいろな角度から自然に接してみました。科学的調査(PH測定)臭覚(樹液)聴覚(セミ・鳥)味覚(木の実)視覚などを使って自然に親しみ楽しんでもらいました。そのためか、種名にあまりこだわらず(代表種は除く)観察会を行うことができました。

湿地では、ミミカキグサ・モウセンゴケ・ヌマガヤ・イヌノハナヒゲ類などの湿地性植物を観察すると共に、湿地の成り立ちや保護について考えました。運よくハッチョウトンボ(雌雄)も姿を見せてくれました。また林ではジョロウグモ・ルリタテハなどが参加者の前を飛んでくれました。

今回は募集について特に力を入れました。新聞掲載の依頼や駅・喫茶店にチラシを置くなどしました。また地元の人に湿地を中心とした自然の保護について理解してほしいと思い、地元大森地区でチラシ350枚を戸別配布しました。当日は、地

元の人を中心に60名もの参加者があり久しぶりの大盛会でした。

ただ、私たちの予想を越える参加者数だったため湿地に多人数で入る結果になってしまいました。今後は、班編成・時間の割り振りなどに充分注意を払う必要があると思います。(国枝利満)

## 尾張支部

8月14日(日) 定光寺月例観察会

今月のテーマは、「水生昆虫による環境指標生物入門」……要するに皆いから水遊びしながら自然観察を、ということです。お盆の日曜日にもかかわらず、13名の参加者がありました。

正伝池(ボート池)直下の御手洗川Ⓐと、上流に人家のない宮刈川Ⓑの2か所の水生昆虫を比較しました。Ⓐは水がやや臭く、チラカゲロウとオオシマトビケラが優先、Ⓑは無臭でサワガニとシロフツヤトビケラが優先と、かなり水生昆虫の構成種が異なりました。

終了後に全員で木陰のベンチで食べた氷は、大変美味でした。暑かったー!

9月11日(日) 善師野月例観察会

大竹会長を講師に、テーマは「クズを取り巻く食物連鎖—クズが僕のごちそう—」で行いました。善師野川沿いの土手に繁るクズを前に、大竹さん手作りの蛇腹式紙芝居(行事案内欄の指導員研修でも大公開の予定)による名調子に全員が聞きほれました。参加者は13名でした。(北岡明彦)

## 知多支部

### 緑の少年団交流会の報告

知多支部で毎年恒例になっている「緑の少年団交流会」は去る9月25日(日)に実施されました。4年目にして初めて雨天になり、半田市の任坊山公園で観察会を実施する予定を変更して、近くにある半田空の科学館のプラネタリウム投影室で秋の星空の鑑賞をし、ひきつづいて今回観察会を実施する予定であった任坊山公園の自然をスライドで紹介しました。

今回は雨天で自然観察会を実施することができませんでしたので、この行事の運営などについて紹介することにします。最初に「緑の少年団交流

会」のお手伝いをさせていただいたのは、昭和60年に東海市の大池公園で行われた自然観察会からです。その後、各市町村もち回りとなり61年に大府市が二ツ池で、62年には常滑市の桧原公園で実施されました。案内は知多支部が各市町村の要請を受けて行っています。観察会の運営にあたり、下見は初めて実施する場所では3回、今までに実施したことがある場所は2回行います。1回目の下見は知多支部の行事運営担当者と当番市町村の担当者で現地に行き、安全・距離・題材などを念頭にして基本コースの設定と当日の日程、準備するものなどを検討します。初めて実施する場所は2回目の下見調査時に観察会当日に出席していただけの会員に参加していただき、計画原案の修正と観察ノートの割当を行い、最後の下見時に計画案を微調整したり、観察ノートの校正、当日準備する物品の確認をします。また、当日必要とする物品の準備と観察ノートの印刷は市町村でやって戴いています。当日、謝金がいただけますので、その一部を寄付してもらい、知多支部の運営費用にさせていただいている。（降幡光宏）

## 東三河支部

### 7月23~24日（土・日）ウミガメ産卵観察会

静岡県自然観察指導員会西部支部主催のアカウミガメ産卵観察会が御前崎海岸であり、10名参加。

7月24日（日）講師派遣観察会 作手村長ノ山  
渥原 豊橋児童文化センター主催で、参加者40名、指導員3名。

### 7月26日（火）講師派遣観察会 凤来町鳳来寺山

豊川信用金庫主催で、参加者110名、指導員10名。

8月27~28日（土・日）支部研修旅行 茶臼山  
当支部は毎年1回1泊2日の研修旅行を実施しており、今回は数えて6回目に当たります。参加者は14名で、主なコースと感想を列記してみます。茶臼山南麓の川字連神社“はなのき”自生地を見る。5年前に当支部が調べた記録と見比べ環境の変化に驚く。アベビ平では多種類のコケ類・キノコ類を見ることができた。阿南町化石館では、この山国信州が太古には海の底であったという化石を見る。

宿泊地では全員一度に入浴でき、しかもカラオ

ケまでが利用出来楽しい一夜で親睦を深めました。翌日は目指す万古渓谷へは道路工事で行けず予定変更。天竜川沿いに下り平岡ダム、天下の難所兵越峠・水窪ダムを通り帰着。

### 9月15日（木）支部観察会 田原町汐川干潟

一般参加29名、指導員17名。主な観察テーマはシギ・チドリの識別・干潟の成り立ちと働き・干潟の生き物と食物連鎖でした。望遠鏡をのぞき鳥の姿に喜んだり、泥まみれになって生き物を探した親子達が干潟の役割や大切さを身を持って体験した観察会であり、好評を得ました。

なお、この様子は中京テレビ・名古屋テレビで放映され、中日新聞・朝日新聞にも記事が掲載されました。

（武田孝夫）

## 奥三河支部

### 7月31日（日）県委託観察会 凤来寺山

奥三河の靈峰・鳳来寺山は、大断層中央構造線に近く、1,600万年前ごろの海成層とその上に乗る山山噴出物の複雑な地質からできています。

そのため地形も変化に富み、植物もそれに伴って北方系から南方系まで豊富な種が分布しておりこれらの植物にたよって生活する動物相も面白くまさに自然観察の適地といえます。

この自然をいかして楽しく深みのある観察会にするためにまず17日に杉山・安藤・村上・鈴木の指導員でいねいに下調べをして31日にそなえました。当日は石川、熊谷の二人も加わり鳳来寺山自然観察の拠点、鳳来寺山自然科学博物館から出発しました。

仏法僧とユリの生態にくわしい館長の話もうかがっていよいよ鳳来寺山の自然への興味を深めたあと、参道周辺の観察をしながらゆっくり登りました。

日陰にはえる地表の植物から鳳来寺山中最大のカサスギまで、動物はモリアオガエルの産卵の場、地質は鳳来寺山のシンボル鏡岩の成り立ち、それにまつわる歴史など30名の参加者も楽しみながら熱心に学習や観察が行われました。

なおこの原稿は、家が寺の為日曜がどうしてもつぶれてしまう横山が、杉山会員から私を聞いてくやしい思いで書いています。（横山良哲）

## 協議会行事報告

### 7月16日(土) 運営委員会（於名古屋 8名）

全県一斉観察会の結果について意見交換を行いました。初めての試みとしては、各支部の努力により新聞等にも載り、一応の評価ができたようです。

事務局問題については、当面は運営委員会で事務を行う方向で検討することとしました。

### 8月21日(日) 植生研修会 Part III

場所：豊橋市自然史博物館とその周辺

内容：〔午前の部〕

講義 「植生研究を通じて分かること」

倉内一二先生（豊橋短期大学）

講義 「植物群落の調査法」 中西 正

〔午後の部〕

植物群落調査の全体実習とグループ実習

参加者：23名

倉内先生の講義は伊勢湾台風後の25年に亘る植生変化についてであり、植生研究によって得られた成果を具体的な形で示していただけました。午後の実習は博物館周辺の荒地（草地）とコナラ林・マツ（テーダマツ）林で行いました。今年の夏としては珍しい猛暑と蚊の猛攻により、予定を一部短縮せざるを得なくなりましたが、内容としては当初の目的を達成できたと思っています。昼食時や研修終了後には、この5月に開館したばかりの自然史博物館の見学もできました。

暑い時期の愛知県の極東での開催にもかかわらず、東三河を中心西三河・知多・名古屋の方の参加がありました。参加者から指摘を受けたことですが、この様な県単位の集まりの場合、自己紹介等の時間をとり、相互の交流を深めることも必要かと思いました。また、時間があれば博物館についての感想をお聞きすれば良かったとも思っています。

なお、この研修会の実施にあたって、参加呼びかけや会場設定等で東三河支部の皆さんに多大な協力を得ました。

昨年からの3回に亘る植生研修会の構成は次の様でした。但し、1回は1泊2日の予定でしたが全てが单日で場所や時間に不都合が生じました。

○ 1回 岡崎市藤川町 1987・8・23

植生の概念・植生図・群落の構造等、基礎的内容の確認、及び野外での群落の確認

○ 2回 尾張旭市森林公園 1988・5・5

植生調査法とその実習

○ 3回 豊橋市自然史博物館 1988・8・21

植生調査法の復習と植生調査を通じて具体的にどの様な自然理解（研究）ができるかを知る。

（副会長 中西 正）

### 9月4日(日) 理事会（於岡崎市 17名）

事務局の問題については、8月5日に会長、副会長が自然保護課長と打合せた結果、実質的には協議会内部で事務を行うこととなり、理事会でもこの旨を了承しました。また、事務局を内部で行うための組織づくりは、現時点で決めるのではなく、様子を見ながら検討することとし、当面は運営委員会で事務を行うこととしました。なお、会規約は当面変更しないため、名義上の事務局は自然保護課のままでです。

次に、64年度から県が協議会へ委託して作成する予定の自然観察の手引第2弾の「四季の自然観察」を受け入れることとし、その内容等について検討を行いました。内容は、春～冬をそれぞれ4分冊とし、季節感を盛り込んだ観察の手引とする予定です。作成は、委員会を設置して行う予定ですが、参加したい方がありましたら支部の幹事さんへ御連絡ください。

その他、各委員会、各支部の活動状況の報告がありました。7月末までに自然観察会は15回程行われていますが、各支部とも指導者の確保に苦慮しているようです。特定の人に片寄らず多くの会員が分担して指導できることが待たれます。

### 9月17日(土) 運営委員会（於名古屋 5名）

事務局問題については、理事会の結果により、64年度は運営委員会で事務を行う方向で意見交換を行いました。

64年度受託事業の「四季の自然観察」については、観察の着眼点・方法を多く示す内容が適当ではないかという意見が出ました。

その他、指導員研修会（12月）の内容検討を行いました。

## 参加者募集

### 協議会の調査への参加のお願い

協議会ニュース21号で紹介しましたように、私達の協議会では本年度より次の3種類の調査を行っています。

- ① ブナ科樹木分布調査
- ② 水生昆虫分布調査
- ③ ほ乳類分布調査

しかしながら、調査を開始して半年たった9月末現在の調査参加者は、②の定点調査（庄内川と豊川）及びアミメカゲロウ発生状況調査（次号の協議会ニュースで報告の予定）を除くと、極めてわずかです。各委員長さんから聞いたところでは、①、②ともに数人からの報告しか届いてないそうです。

これらの調査は、各れも多人数により、ひとつでも多くの場所で調査を行うことが、最大のポイントとなります。2つの調査の調査表を同封しますので、会員の皆さんのがこぞって参加されるよう

お願いします。

なお、詳細については、協議会ニュース21号に掲載した、各調査の委員長又は委員にお聞き下さい。

### ◎インフォーメイション

長久手町にある愛知県青少年公園の児童記念館で、「青少年公園の昆虫写真展」を、10月9日から1月上旬（予定）まで催しますので、一度見に来てください。（名古屋支部 渡並喜一郎）

### 会員異動

昭和63年1月から9月までの間に、新たに加入又は退会された方は、次のとおりです。

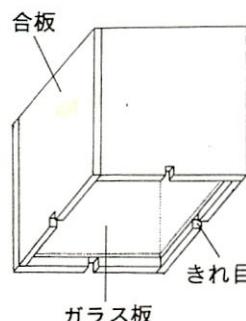
#### 〔加入〕

亀井省三（名古屋市緑区鳴海町字鏡田13-308）  
鈴木成和（津島市昭和町4-14）

#### 〔退会〕

村松 武（63・4・22退会届受理）  
奥田勝夫（63・5・20退会届受理）

### 観察あれこれ



#### 水中のぞき窓

今回紹介するのは、東三河支部の鈴木友之さん作成による、「水中のぞき窓」です。4枚の板とガラス板1枚を組み合せたものですが、さすがは本職（建築師さん）とうならせる出来映えです。また、大・中・小3個を重ねて、収納スペースを減らす工夫もあります。

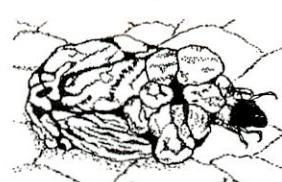
水生昆虫の観察は、一般に、対象を一旦採集して岸に持ち返ってから行うのが普通です。しかし、これでは水生昆虫達の本当の生活ぶりは観察できません。

そこで、この水中のぞき窓が登場します。人影にびっくりして一度逃げたり静止したりした

水生昆虫達も、しばらくじっとのぞいていると普段の行動を始めます。水底の小石の表面をシロタニガワカゲロウがササッ・ササッという感じではい回ったり、オイカワの稚魚が群れをなして通り過ぎたりします。初めて水中をのぞいた人は、静止したカップの水の中で見ると全く違うヒラタカゲロウの素早い動きにびっくりすることでしょう。そして彼らは、流水の中でこそ自由に動き回ることに気がつくでしょう。

このように、少人数での水生昆虫の観察に最適な小道具といえます。なお、詳細な作成方法は、鈴木友之さん（〒440 豊橋市三ノ輪町2-45）に、お問い合わせ下さい。

（北岡明彦）



ヤマトビケラ

## 行 事 案 内

## お 知 ら せ

11・5(土)～6(日) 知多支部 奥三河観察会 東海市農業センター集合 14:30
11・6(日) 尾張支部 県委託観察会 JR定光寺駅前(瀬戸市) 9:00 (テーマ)森の自然を楽しもう
11・6(日) 東三河支部 支部観察会 豊橋市嵩山町蛇穴 9:00 豊橋市後援で、市広報でPR
11・12(土)～13(日) 協議会 土壌動物研修 鳳来町愛知県民の森 15:00 申し込みは各支部連絡員まで
11・13(日) 尾張支部 善師野月例観察会 名鉄善師野駅前(犬山市) 9:00 (テーマ)木の実・草の実いろいろ
11・20(日) 名古屋支部 県委託観察会 守山区東谷山フルーツパーク 9:30
11・20(日) 西三河支部 支部観察会 豊田市猿投神社駐車場 10:00
12・4(日) 名古屋支部 堀川を歩く会 地下鉄浅間町駅改札口 9:30
12・4(日) 知多支部 冬の水鳥観察会 半田市上池と刈谷市草野池 9:00
12・10(土)～11(日) 協議会 指導員研修 犬山市継鹿尾寂光院 15:00 申し込みは各支部連絡員まで
12・11(日) 尾張支部 定光寺月例観察会 JR定光寺駅前(瀬戸市) 9:00 (テーマ)シダのいろいろ観察会
1・8(日) 尾張支部 善師野月例観察会 名鉄善師野駅前(犬山市) 9:00 (テーマ)冬鳥の観察 終了後に犬山市内にて総会を開催

### =支部総会シーズン到来=

毎年1月～2月初旬は、支部の総会が開催されます。今年度事業の反省と来年度事業計画の作成、そして会員相互間の親睦を図りますので、是非支部総会に御出席ください。日程等は後日、支部毎に連絡があります。

### ◎ 協議会の研修について

左の行事案内にありますように、11月12日(土)～13日(日)にかけて、鳳来町の愛知県民の森において、土壌動物(ダニ類)の権威である横浜国立大学の青木淳一先生を招いて、土壌生物研修を催します。遠くからの講師を招いての研修会ですので、この機会を逃すことなく、御参加下さい。

また、12月10日(土)午後から11日(日)にかけて昨年に統いて指導員研修会を開催します。今回は場所を変えて、犬山市継鹿尾の寂光院で行います。宿舎の関係で宿舎での飲酒は厳禁となっていますが、熱い話し合いで寒さを吹きとばしたいと思います。私達の協議会の問題点や将来についてじっくり語り合うとともに、日頃思っていることを話しあいましょう。また、観察会における新しい手法や観点についても紹介する予定です。多くの支部から多数参加してくださるようお願いします。

申し込みは各支部連絡員又は運営委員に、できるだけ早く連絡してください。

### ◎ 調査報告書資料の配布について

前回お送りしたセミの調査報告書と今回のシイ・カシ調査報告書は、経費節減のため地図が縮小してあります。縮小しない地図を希望の方、余部の欲しい方は、佐藤国彦まで御連絡を。

### 〔編集後記〕

今号は、1日も早く会員の手元に届くことを第一義としました。そのためか、ほとんどの記事を、尾張地方の会員が占めてしまいました。来年度のマイ・ウォッチングは全く未定ですし、おたよりコーナーへの投稿に、三河地方の会員の皆さんの発奮をお待ちしております。自薦・他薦を問いませんので、耳寄りな話題や活動がありましたら、是非御連絡ください。

(北岡)

編集事務局：瀬戸市原山町1-6 県職住宅

3棟 401号 北岡明彦